

37. 8. 17 毎日新聞

14版 第28586号 (明治25年3月25日第3種郵便物認可・昭和24年2月17日国許特別取扱承認 新聞第134号)

毎日新聞

人類的立場を貫く

パグウォッシュ会議出席を前に

湯川博士、京都で語る



科学者京都会議の声明に代表者
名する湯川博士

世界の有名な科学者、知識人を集める平和会議の「パグウォッシュ第九回会議」が二十五日から六日間英国のケンブリッジで、また続いて同第十回会議がロンドンで九月三日から五日間にわたり開かれた。日本学術会議を代表して一人参加する京大基礎物理学研究所長湯川秀樹教授は、九日から横浜で静養す

セル・アインシュタイン声明(一九五五年七月)に参加署名しており「ラッセル・アインシュタイン声明の参加者のうち三人が故人となった現在、もう一度根本の精神を確認しようというラッセルの懇請に応じ、出席することにした」という。すでに五月の「科学者京都会議声明」を要約、これに代表は故人となった。ラッセル卿は私に手紙を寄せ「ぜひ最初から声明とパグウォッシュ会議に關係しているあなたに米十八ヶ国軍の会議には完全軍縮についてかなりの立ち入りた議論や国際

るとともに会議への想を練り十五日夜京に帰ったが、二十一日の羽田出発を前に十六日「今度の会議は最も大事な会議であり、積極的に発言したい。そして科学者京都会議のことも報告する」と、科学者として平和への強い良心と熱意をたぎらせている。湯川博士は同会議の第一回開催の契機となった「ラッ

元首や有名な科学者らに配布、その反響として外国から共鳴する手紙も寄せられていたが、今度の会議への期待、責任などについてつぎのように語った。世界平和のために多くの人がそれぞれ違った立場から努力しているが、私たちは科学者だからすべての人が納得して平和をつくり出せるような傾向を助長したいと常に願ってきた。それはパグウォッシュ会議の出発点ともいふべき

g081-013-009